Pray for Japan

パルシステム東京　東日本大震災復興支援活動報告書 2014

■ Pray for Japan 2014 発刊に寄せて・・・・・・・・・・p. 1
■ 復興支援・災害対策方針・・・・・・・・・・・・・・・p. 1
■ 復興支援・災害対策活動（2014.4.1 ～ 2015.3.31）・・p. 2
■ 復興支援活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 3～10

生活協同組合 パルシステム東京

－Pray for Japan 2014 発刊に寄せて－

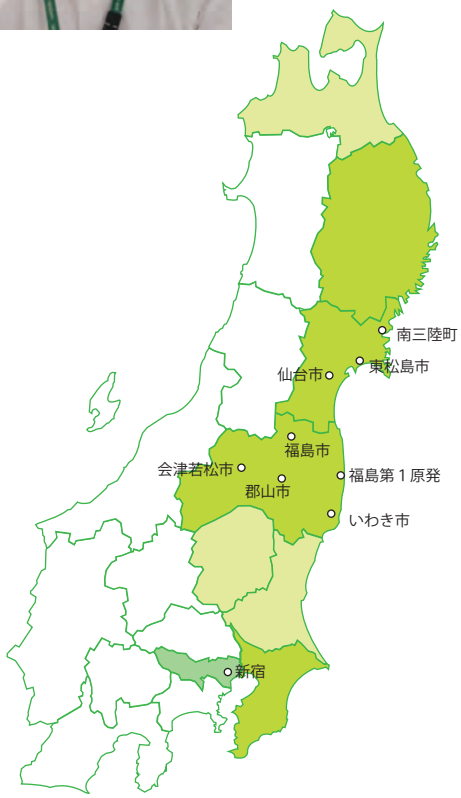
被災地・被災者を“忘れない”復興支援活動を！

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　辻　正一

東日本大震災から丸４年が経ち、５年目を迎えましたが、いまだに23万人が避難生活をしています。住宅再建は遅れ、多くの方が仮設住宅で先が見えない生活を強いられるなど、課題は山積みです。

パルシステム東京では、東京電力福島第一原発事故の影響が甚大な「福島」に復興支援の重点をおきながら、新たに「パル未来花（ミライカ）基金」を設立し、組合員の自主的な支援活動を資金面で支える取り組みをはじめました。福島の親子を招く保養企画、仮設住宅の方の手作り商品の販売、仮設住宅に出向きプラネタリウム投影で明日への活力を見つける手伝い、東京に非難している被災者を元気づけるチャリティコンサートなど、初年度から様々な支援が行なわれました。

組合員と一緒に基金を育てながら、引き続き、被災地と被災者を「忘れない」をキーワードに、復興支援活動に取り組んでまいります。



2014年度 復興支援・災害対策方針

＜優先して取り組むこと＞

1．“忘れない”を基本視点に復興支援活動を引き続き推進します。

◆東京電力福島第一原発事故被害者への支援活動として、福島支援カンパ、福島の子どもたちとの保養企画を継続して取り組みます。

◆「震災復興支援基金（仮称）」を創設し、組合員の自主・自発的な震災復興支援活動を資金面で支援する制度を導入します。

◆被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーおよびスタディツアーを実施します。

2．災害時における事業継続と組合員の防災意識を高めます。

◆事業継続計画に基づく防災訓練や復旧対策に向けた仕組みの強化をすすめます。また発生が予測されている首都直下地震、南海トラフ地震に備え、管理職を対象とした「図上演習」を実施します。

◆災害被害を軽減するために自助、共助の重要性について、機関誌での広報や出前講座を通じて普及します。また、他団体（東京都生協連コープ災害ボランティアネットワークなど）と連携した取り組みも広めます。

＜その他の取り組み＞

◆各地で起きている異常災害による被災に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援をすすめます。

◆広域避難者の実態とニーズに合わせた支援を継続的に行ないます。

主な復興支援・災害対策活動（2014. 4. 1～2015. 3.31）

4月25日～28日	宮城県「横山不動尊春大祭」東京都生協連災害ボランティアネットワーク協力支援に職員1人を派遣
5月4日～5日	宮城県東松島市仮設住宅（2011年度パル・パラソルカフェ開催地）へのヒアリング訪問と仙石線全通開通の見通しを祝うファイナルイベント「走れ！仙石線」に役職員3人が参加
5月26日	新宿区に避難している避難者の会「青空会」のサロンへお茶菓子を提供
5月30日	東日本大震災の災害公営住宅と復興まちづくりの建設を最優先とすることを求める意見書を内閣総理大臣及び復興庁大臣に提出
5月30日	東日本大震災の災害公営住宅と復興まちづくりの建設を最優先とし、東京オリンピックの規模縮小を求める意見書を東京都知事に提出
7月2日	「自分と家族を守る防災学習会」を開催。組合員27人、役職員11人が参加
7月13日	避難者の当事者団体「むさしのスマイル」企画の広域避難者交流会へこんせんくんグッズを提供支援（東京都生協連関連）
7月24日	「生活協同組合パルシステム東京震災復興支援基金」の設立を理事会にて議決
7月26日～27日	「宮城県東松島市ひびき工業団地仮設住宅夏祭り支援ツアー」を開催。組合員22人、役職員12人が参加
8月1日～4日	組合員の被災者支援活動「福島こども支援プロジェクト・西多摩の会」保養キャンプの食材費150,000円を資金援助
8月4日～9月5日	「震災復興支援基金」の愛称を組合員から募集、36件の応募から「パル未来花（ミライカ）基金」に決定（9月理事会）
8月30日	東京都・杉並区合同総合防災訓練に職員2人が参加（東京都生協連関連）
9月2日	「震災復興支援基金」の手引き及び申請書の説明会を開催。組合員14人が参加
9月25日	新宿区「青空会」のサロンへお茶菓子と会場（東新宿本部）を提供
9月27日～12月6日	東京都生協連コープ災害ボランティアネットワーク主催「第14期コープ災害ボランティア養成講座」に組合員・役職員22人が参加
10月	2014年度下期震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」より12グループの活動に総額2,276,710円を助成
11月25日	管理職対象に図上演習を開催。職員57人が参加
11月7日～8日	「福島スタディツアー」を開催。組合員12人、組合員外1人、役職員10人が参加
11月17日～12月5日	「福島支援カンパ」を実施。8,090,000円が寄せられる
11月	東北6県の生協連協同による「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める署名」に協力。委員、役職員より1,130筆の署名が寄せられる。11月27日宮城生協へ送付
12月8日～2月28日	パルシステム連合会主催「2014年度福島子ども保養カンパ」を実施。パルシステム東京の組合員より4,979,400円が寄せられる（パルシステムグループ全体15,708,580円）
2015年1月12日	パルシステム東京映画祭にてドキュメンタリー映画「Ａ２－Ｂ－Ｃ」を上映
1月16日～17日	日本生活協同組合連合会主催　阪神淡路大震災より20年の交流会「2014年度　つながろうＣＯ・ＯＰアクション交流会（神戸市）」に役職員4人を派遣
2月7日	楢葉町社会福祉協議会より要請を受け、会津美里町宮里応急仮設住宅での「ならは雪まつり2015」への食材支援
2月28日	「シンポジウム・東日本大震災から4年　3・11東日本大震災～私たちは忘れない　今、福島でおこっていること」を開催。組合員・役職員95人が参加
2月28日	「福島支援カンパ贈呈式」を開催。復興支援特別委員会にて選定された6団体に贈呈
3月12日	震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」2015年度上期の募集説明会を開催。2グループ4人が参加
3月28日～30日	2014年度福島親子保養企画を開催。パルシステム福島組合員親子16組40人・役職員3人が参加。交流会にパルシステム東京組合員親子10組24人が参加
3月	「原発事故被害者の救済を求める全国運動　第二期署名」を実施（職員対象～3月末）

東日本大震災支援活動ブログ
Pray for Japan

パルシステム東京の東日本大震災支援活動ブログでは、2011年3月からの復興支援活動を紹介しています。
パルシステム東京ホームページ（http://www.palsystem-tokyo.coop）より

◆ 組合員の自主・自発的な震災復興支援活動を資金面で支援する制度を導入します。

震災復興支援基金（パル未来花（ミライカ）基金）の創設

私たちは被災された方々に寄り添い、その生活の復興のために、生活協同組合として、そして東京というこの地でなにができるかを考え、「忘れない」ことをキーワードに実践してきました。今求められているのは、多くの組合員と役職員が情報を共有し学びあうこと、「自分もなにかできるはず」と思うこと、そしてその思いを実践につなげることです。

この実践を助成するため、2014 年 7 月に『生活協同組合パルシステム東京震災復興支援基金』を設立しました。組合員の復興支援活動を資金面で応援するしくみで、剰余金から積み立てられる震災復興支援積立金を原資としています。

2014 年度下期では 12 グループへ、総額 2,276,710 円助成しました。

愛称

基金を身近に感じていただくため、８月４日から９月５日までの期間、組合員から愛称を募集しました。
36 件の応募の中から「明るい未来を信じ、新しい花を咲かせるために、みんなで助け合い、力を合わせて、日々努力していく気持ち」という意味を表す『パル未来花（ミライカ）基金』に決定しました。

■助成グループ　活動報告（50 音順）

✿ アンサンブル・カーナス　「笑顔になれるコンサート～音楽の力」　助成金：150,000 円

目的：故郷から遠く離れた東京で避難生活を強いられている方々を元気づけ、また震災が忘れ去られてしまわないようにコンサート活動を通して多くの人に関心を持ってもらう

活動：2015 年 1 月 24 日に「復興支援チャリティーコンサート～日本の美しき風景～」（東京・渋谷）を開催し、収益を岩手県大槌町「槌音プロジェクト」に寄付しました。（来場者約 80 名）

✿ 石巻スコッパーズ応援団　「スコップ三味線と鳴子温泉日帰りの旅」　助成金：367,000 円

目的：震災から 3 年以上に及ぶ不自由な仮設住宅暮らしでストレスも大変なものとなっているため、楽しみを持つことで少しでもストレス軽減してもらう

活動：2015 年 2 月 5 日、石巻渡波仮設住宅の方々の保養企画として「スパリゾートハワイアンズへの日帰り旅行」（福島・いわき市）を開催。移動の車中ではスコップ三味線の演奏もしました。

✿ 教育・芸術・医療でつなぐ会；金ヶ崎プロジェクトチーム　助成金：145,740 円
「あの色、この色、どんな感じがするのかな？～シュタイナー教育の水彩体験」

目的：福島原発事故の影響で放射線量が高い地域に住むことになり、精神的に疲弊している親子を元気づけ、「自分の色」を取り戻してもらう

活動：2014 年 12 月 13 日に金ヶ崎第一小学校の低学年の子どもと保護者（約 60 名）を対象にシュタイナー教育に基づく水彩の手法で色彩体験を開催しました。

✿ チャイるのネット・子ども支援 WEEK チーム　助成金：88,000 円
「チャイるのネット・子ども支援 WEEK」

目的：現在も高い放射線量の中で暮らさざるを得ない子どもたちの内部被ばくの実態をきちんと検査できるよう、尿検査費用を支援する

活動：2014 年 9 月と 2015 年 3 月の「子ども支援ＷＥＥＫ」キャンペーンで寄付・募金活動を行ない、無料の尿検査を実施（前期で 11 名分）。また、尿検査にともない専門家を派遣し、内部被ばくの学習会を開催しました。

✿ 東京の親戚プロジェクト　「福島の家族・友人等の保養」　助成金：77,500 円

目的：放射線の影響を心配されている方々に一時的にでも放射能のことを忘れ、家族や友人たちと東京で休日を過ごし、心と体の休養をしてもらう

活動：2014 年 10 月～ 2015 年 3 月（パル未来花基金利用の活動、活動自体は 2012 年より継続実施）に東京の保養先を準備（東村山 2 軒、清瀬 1 軒、清瀬ホームステイ 1 軒）。保養先には安全な米・調味料・野菜等の食材を用意し、滞在を支援しました。

✿ ならは盛り上げ隊　助成金：220,000 円
「手仕事を通じた“人とひとのつながりづくり”をメインテーマとした福島復興イベント」

目的：東日本大震災や福島原発事故を風化させないよう、「布ぞうり」づくりを通じた被災者コミュニティやネットワークを周知する

活動：2014 年 11 月 29 日に「布ぞうりフェスティバル in 喜多方」を開催。楢葉町の作り手、交流を重ねてきた岐阜県串原の作り手も参加し、楢葉町、大熊町の仮設住宅の方たちの交流を深める場になりました。

アンサンブル・カーナス

チャイるのネット・子ども支援 WEEK チーム

福島こども支援・八王子

石巻スコッパーズ応援団

Neko smile（ネコスマイル）

星の語り部

Neko smile（ネコ　スマイル） **助成金：203,220 円**
「根古仮設住宅で始まった手仕事のクラフトかごを広める」

目的：今も仮設住宅で暮らしながら仲間と寄り合い所帯でクラフトかごを作っている方々に、自分たちの手仕事による利益を得てもらうことで、楽しみをもったり精神的に自立することを促し、尊厳を取り戻してもらう

活動：仮設住宅の方たちとの信頼関係づくりやデザインの提供、販売計画の打ち合わせからスタートし、2015 年２月のイベントでの商品を試作販売。売上金の８割を作り手さんへ還元出来ました。

ハート・のんびる　「仮設住宅に独居する高齢者にひざ掛けを送ろう」 **助成金：146,780 円**

目的：被災地の仮設住宅に住む方に東京の人たちの応援したい、忘れていないという思いを伝える。また被災地の現状をより多くの人に理解してもらう

活動：東日本大震災以降継続して岩手・宮城の仮設住宅に独居する 65 歳以上の方にひざ掛けの贈呈（2014 年度下期は 250 枚）や被災者の手作り小物を販売し売上金を 100％還元する活動をしていますが、今年度はパル未来花基金を利用し、2015 年２月 15 日に被災地の手芸グループを安穏朝市に招き、多くの人と交流し、被災地を理解してもらいました。

はんど・めいど　OHANA　「手づくりで震災復興応援」 **助成金：40,000 円**

目的：東京に避難中の被災者の方々に手づくり講習会を通して慣れない土地での生活を楽しんでもらい、参加者同士のコミュニティを広げてもらう

活動：福島から保養に来た親子へ手づくり講習を１回行ないました。また今回の基金の助成対象ではありませんが、手づくり品をイベント等で販売し、今後の手づくり講習会開催に向けて費用を積み立てる活動も行なっています。

被災地の現状を聴き、私たちが東京でできることを考える会 **助成金：63,000 円**
「被災地の現状を聴き、私たちが東京でできることを考える」

目的：東日本大震災から４年経ち、東京では現地の情報も得にくい中で被災地とどのように繋がり、関係を作っていったらよいか、東京に住みながらできる事の糸口を掴みたい

活動：2015 年２月 24 日の震災直後にボランティアとして現地入りし活動を継続している被災地ＮＧＯ協働センター・スタッフ増島智子さんを講師に迎え、参加者と共に何ができるかを考えるための学習会を開催しました。

福島こども支援・八王子 **助成金：384,973 円**
「2014 ゴールデンウィーク／夏休み　ふくはち親子交流合宿」

目的：東日本大震災と福島原発事故により被災した子どもと保護者に日ごろのストレスを癒してもらう

活動：2014 年４月（３泊４日）と７月（４泊５日）に親子交流合宿を開催　（毎年開催）。子どもたちには思いっきり外遊びをする体験、保護者には交流とケアプログラム、八王子地域の子どもたち・市民には交流と協同、学習の機会を提供しました。

星の語り部　「出前プラネタリウム」 **助成金：390,497 円**

目的：仮設住宅に住む被災者の方々にプラネタリウムの人工の星空の下でほっこりする時間を作り、宇宙の広さから心を軽くしてもらい、観望会では上を向くことで明日への活力を見つけてもらう

活動：2015 年２月から３月にかけて、陸前高田・気仙沼・南三陸・石巻の仮設住宅などに出向き、プラネタリウムで投影と星空工作や天体望遠鏡での星空観察会を開催しました。

◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーおよびスタディツアーを実施します。

東松島市ひびき工業団地仮設住宅夏祭り支援ツアー

2011 年度に組合員と役職員が協力して宮城県東松島市の仮設住宅で「パル・パラソルカフェ」（傾聴ボランティアとカフェの提供）による被災者支援を行ないました。また、2013 年度にはパル・パラソルカフェ参加者が再び仮設住宅を訪問し、被災地の現状や、今必要としている支援について生の声を聞いてきました。2014 年度は仮設住宅の自治会から「夏祭り」への出店と手伝いの相談があり、夏祭り支援ツアーを開催しました。

・開催日：7 月 26 日（土）～ 27 日（日）
・参加者：組合員・役職員 34 人

1日目
夏祭り支援

パルシステム東京では、流しそうめんや、フランクフルトを販売した他、自治会の焼きそば、焼き鳥などの出店で、焼き手や販売のお手伝いをしました。炎天下の中、皆で汗だくになりながら自治会の方とともに、お祭りを盛り上げました。

そうめんは、本企画に賛同した日東富士製粉株式会社（パルシステム取引先）から無償で提供していただきました。

流しそうめんは仮設住宅の方をはじめ、踊りや太鼓の演奏で参加していたボランティア団体の方たちにも大好評。

フィナーレのよさこい踊りには組合員も飛び入り参加し、夏祭り運営の中で様々な交流が生まれました。

また、夏祭り終了後は、仮設住宅自治会の方々と組合員が集会室で交流会を開催しました。膝をつき合わせ、避難者の声に耳を傾けました。

参加者の声

●自治会の方とはじめはぎこちなかったのですが、だんだん一体となって焼きそばづくりができました。
●日常生活に活気をもたらす活動となり、皆何かしたいと思っていることを知ってもらえる機会になったと思いました。
●同じ思いを持つ参加者とみんなで楽しく作業出来ました。何かしたいという思いを持った方が沢山いて刺激になりました。

2日目
南三陸スタディツアー

南三陸町で震災当時から今、そしてこれからのことについて、様々な方からお話を伺いました。

《主なスタディツアープログラム》
・防災庁舎、戸倉中学校、波伝谷地区等震災による大きな被害を受けた地域の視察
　… 語り部ガイド・後藤一麿さん
・『三陸さんたろ（復興住宅板倉の家）』の見学
　…（社）地域再生コミュニティビジネス推進協会 現地駐在員・清水信義さん
・農漁家レストラン『松野や（※）』で昼食
　… 松野三枝子さん
・三陸海産物の宅配便『たみこの海パック（※）』の見学
　… 阿部民子さん

※ 2013 年度パルシステムグループ震災復興支援カンパを建設資金などの一部として活用

「拠り所になれる場所を」と思って、お店を始めました。
…松野や　松野さん

いくら技術が進歩しても自然が許してくれる範囲でしか私たちは生きていけない。
…語り部ガイド 後藤さん

東日本大震災の大津波で 800 人以上の死者・行方不明者を出した南三陸町。今も多くの人が仮設住宅でくらしています。

参加者の声

●実際に目の前にしてこれが現実だと改めて感じた。自分の目で見て、耳で聞いたことをこれからも忘れずにいたい、復興へは長い道のりであると感じました。
●東京にいてテレビや写真では決して実感できない生の言葉に考えさせられました。
●前を向いて、困難を乗り切っている人間の強さ、そして教訓を伝えることの大切さを感じました。

◆被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーおよびスタディツアーを実施します。

福島スタディツアー

東日本大震災で被災した地域の中でも、震災による津波に加え、東京電力福島第一原発事故の影響で、復興が最も苦しい状況にある福島県。福島スタディツアーは、パルシステム福島の和田佳代子理事長の「福島に来て、現状を知ってほしい」の声をきっかけに 2013 年度からスタートしました。

2014 年度は、郡山市と会津若松市を訪問。復興と自立のため避難先で起業した方、放射能の不安を抱えて子育てをしている方、風評被害に苦しむ生産者など、様々な立場と視点の話をお聞きし、復興への道のりの険しさを実感するとともに「見て」「聞いて」「交流する」ことを大切にしたツアーとなりました。また、参加者が東京で新たに復興支援を始めるなどの成果にもつながりました。

・開催日：11 月 7 日（土）～8 日（日）
・参加者：組合員・役職員 22 人、組合員外 1 人

1日目

パルシステム福島・郡山センター

パルシステム福島・和田佳代子理事長 「カンパなどの支援は、とてもありがたい。でも、なによりも今回、皆さんが福島で見聞きしたこと、感じたことを、東京に帰って周りの方に広めてくださることが一番の応援になります」

會空（あいくう）・庄司ヤウ子さん 「自宅は、ネズミなどに荒らされ、住める状態ではありません。町は " 復興を " と話しますが、私にはポーズとしか思えません。でも私には手仕事がありました。被災に立ちすくむのではなく、自分自身で動く ....。そうしていると多くの人が手をのばしてくれました。その手をつないで、つないで、ここまでやってきました」

『3a ！郡山』事務所

代表・野口時子さん 「家族からも『行政が、放射能が原因では大きな病気にはならないと言っているのに神経質すぎる』と非難されて悩んでいる方もいます。そんな思いを吐き出すとともに、学び合い、被害実態を調査する活動をすすめています」

※「3a! 郡山」は福島支援カンパ贈呈先団体

猪苗代「雪下キャベツ」畑

生産者・渡部雅幸さん「安全で魅力ある作物を作れば、消費者は必ず評価してくれます。『雪下キャベツ』は雪の中で糖度を蓄え、とても甘いキャベツです。手間はかかりますが、自信をもって野菜作りに打ち込むことで、風評被害に対抗したい」

2日目

柿の圃場、有我りんご園

あいづグリーンネットワーク事務局長・舟窪満さん「事故直後、原発から 100km 近く離れていても、飛来した可能性のある放射能を流すため、高圧洗浄水を 1 本 1 本の柿の木にかけました。さらに土壌から作物に放射能が移らないよう、表土の廃棄も。何十年もかけて培った豊かな土を捨てることは、生産者にとって身を切るほどつらいこと。しかし、成果はあり、私たちの作物からは放射能は検出されていません」

みしらず柿生産者
山内清則さん

1987 年からパルシステム福島との交流が続く、須賀川・有我果樹園のりんご畑で、パルシステム福島の組合員とも交流。りんご園 2 代目の有我博樹さんからは、震災の影響から美味しいりんごの見分け方まで、りんご園について様々な話をお聞きしました。

参加者の声

- ●原発の被害が果てるともしれない中で頑張り、新しい試みなどをしている方のことを知りました。
- ●パルシステム福島の頑張りが伝わってきました。
- ●原発事故の為に家族近隣とも大きな溝ができる状況を知りました。その狭間で苦労するお母さん達が手をつなぐ大切さが伝わってきました。
- ●「風評被害」ではなく「原発被害」であるという言葉にも共感しました。
- ●生産者から見ての県内での思い、考えさせられました。

◆東京電力福島第一原発事故被害者への支援活動として、福島支援カンパ、福島の子どもたちとの保養企画を継続して取り組みます。

福島支援カンパで継続的な支援を

■福島支援カンパ

福島県で放射能から子どもたちを守る活動に取り組んでいる市民団体を支援するために、2012 年度から組合員カンパを行っています。2014 年度までのカンパ累計実績は、29,907,200 円となりました。

・11 月 17 日（月）～ 12 月 5 日（金）　2014 年度「福島支援カンパ」を実施、カンパ金総額 9,090,000 円
※贈呈先は下記参照

・2015 年 2 月 28 日（土）　東日本大震災シンポジウムで 2014 年度「福島支援カンパ贈呈式」を開催、贈呈先 6 団体から福島の現状や支援活動について報告（p. 8 参照）。

カンパ贈呈先団体	主な活動（※ 1）	贈呈額（※ 2）
ＮＰＯ法人 いわき放射能市民測定室 たらちね	食材や土壌などの放射能検査などに取り組む団体。甲状腺検診にも力を入れていて、2014 年は 2,428 人の検診を行ないました。さらに、2015 年からは、全国でも数少ない「ベータ線測定装置」による検診もスタート。より正確な測定による健康状態の把握で、市民の不安を払拭したいと考えています。	1,298,210 円
一般社団法人 子どもたちの健康と未来を守る プロジェクト	福島では、「放射能の影響はみられない」という情報が流れています。しかし本当の情報が知りたいと思う親は多く、団体では、正しい情報の提供に力を入れています。学習会の開催や情報誌の作成のほか、独自の視点で選んだスポットの放射能値の測定も展開。また、中高生への情報提供も行っています。	1,605,910 円
NPO 法人 ふよう土 2100 「交流サロンひかり」	行政の支援が届きにくい、避難生活を送る障がい児のケアにスポットをあてた活動が特徴。知的障がい児や、身体障がい児の一時預かり事業などで、負担の大きい障がい児をもつ親を支えます。近隣から騒音苦情を受けるなど、障がい児支援の難しさも体験。カンパ金は、新しい施設の防音化などに使われます。	1,876,550 円
NPO 法人 まつもと子ども留学基金	原発事故後、子どもたちはたくさんの不安を抱え、勉強にも集中できずにいました。「まつもと子ども留学基金」は、松本市四賀地区に施設を作り、安心・安全な場所でくらしながら勉強をしてもらうために、福島からの留学生を受け入れています。現在 8 人の子どもたちが共同生活をおくりながら、がんばっています。	1,291,410 円
未来の福島こども基金	内部被ばくの健康被害から子どもたちを守るには、放射能汚染の心配のない場所での保養が効果的というデータが、チェルノブイリ事故後の検証で明らかになっています。3 年前にオープンした保養施設「沖縄・球美の里」では、すでに 1,026 名の子どもが滞在。「福島支援カンパ」も保養活動などに使われます。	1,867,310 円
３ａ！郡山 （安全・安心・アクション）	「話そう、不安なこと。ひとりじゃない」がモットーの 3a! 郡山。放射能の不安を口にすることも難しくなっていることもあり、団体の利用者は増えており、親たちにとって貴重な場となっています。甲状腺と血液の検査への補助を 18 歳以上にも拡げるなど、今年度も活発な活動を予定しています。	1,150,610 円

※ 1　各団体の活動内容は、2014 年 12 月時点の報告内容です。
※ 2　各団体へ、城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息分 100 万円も分配し、贈呈しています。

■パルシステムグループ連携企画

パルシステム連合会主催の「2014 年度福島子ども保養カンパ」（12 月 8 日～ 2 月 28 日）に参加。パルシステム東京組合員からは、4,979,400 円が寄せられました（パルシステムグループ全体：15,708,580 円）。2015 年度の保養プログラムの一部に活用されます。

◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーおよびスタディツアーを実施します。

シンポジウム・東日本大震災から４年

3.11 東日本大震災～私たちは忘れない、今福島でおこっていること

今回で３回目の開催となるシンポジウムでは、基調講演に「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」代表の山田真さんを迎え、「福島の今」を伝えていただきました。講演後には、2014 年度福島支援カンパの贈呈式と活動報告や、昼食交流、震災復興支援基金 (パル未来花(ミライカ)基金) 助成グループの中間活動報告を行ないました。

甲状腺検診が受けられる都内の病院についてなどの質疑応答も交わされ、一人ひとりが「私にできること」を考えることの大切さを実感しました。

・開催日：２月 28 日（土）
・参加者：組合員・役職員 95 人

□基調講演「今、福島でおこっていること」 講師：山田 真 氏

小児科医・八王子中央診療所理事長
「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」代表として福島を始め各地で健康相談を受けている。
著者に『水俣から福島へ』（岩波書店）など。

私が福島に通い続ける理由

私が初めて健康相談会で福島市を訪れたのは 2011 年６月でした。健康相談を終えて福島駅に立ったとき、乗降客がほとんどいないこの駅は「見捨てられている」と感じました。報道関係の若い社員などが、危険だからと福島からひきあげるなか、福島市民は風評被害を危惧し「放射能の影響はない」と言わなければならない雰囲気が当時からありました。あれから４年、福島を題材にした報道は格段に減り、健康相談にくる方々の話からは、地元では放射能の話題に触れてはいけない、戒厳令が敷かれたようにものが言えない状況になっているのがわかります。私は２カ月に１回のペースで福島を訪れていますが、市民運動も減り私が健康相談を行う足場も失われつつあります。今、福島を孤立させてはならない。そのために私は命あるかぎり福島に通い続け、「福島の語り部」になって講演を続けると宣言したのです。

増え続ける甲状腺ガンと検査を拒む国

放射線による健康被害の実態を知るには、福島だけでなく近県やホットスポットを含めた広範囲の検査が必要ですが、国はかたくなに検査を拒んでいます。

1990 年代の半ばからチェルノブイリ原発事故や医療被ばくの増加が原因とみられる甲状腺ガンが、世界的に急増しています。その研究が世界各国で取り組まれているにもかかわらず、福島での詳細調査や分析がまったくなされていない、あるいはしていても隠されています。国がこれほどまでに検査や研究を拒む理由は、検査をすれば何か異常が見つかるからだと疑わざるをえません。

「忘れない」ということ

福島の人たちの多くは「放射能への不安は語らない」ことでしか防衛できないところまで追いつめられています。こんな福島の人たちに対して、私たちは何ができるかということを考えていかなくてはいけないと思います。「忘れない」ということがよく言われますが、忘れないための集会をやるだけではダメなのです。大切なのは福島を他人ごとにしないこと。日本中が汚染されて、私たちにも健康被害が及ばないとも限りません。私たち自身が被災者であると考え、国や東電に償わせる運動をしていかなくてはならないと思います。

□福島支援カンパ贈呈式、震災復興支援基金（愛称：パル未来花基金）活動報告

2014 年度福島支援カンパ贈呈式と贈呈先６団体からの精力的な活動報告を聞き、福島の現状についての理解がさらに深まりました。

軽食＆交流タイムの後、震災復興支援基金（パル未来花基金）の助成グループが活動を報告。多様な支援活動への共感の輪が広がりました。

※震災復興支援基金（パル未来花基金）、福島支援カンパの詳細は各 p. ３、p. ７に記載しています。

◆ 東京電力福島第一原発事故被害者への支援活動として、福島支援カンパ、福島の子どもたちとの保養企画を継続して取り組みます。

春休み！東京でリフレッシュ！「パルシステム福島親子保養企画」

福島の子どもたちの支援を目的とし、パルシステム福島の親子に東京で過ごす時間を提供する保養企画は、 2011 年度の開始から 5 回目になりました。パルシステム東京組合員親子とも交流し、東京での休日を２泊３日で楽しみました。

・開 催 日：3 月 28 日（土）～ 30 日（月）
・参 加 者：パルシステム福島組合員親子 16 組 40 人・役職員 3 人
・企画行程：（1 日目）浅草散策、東京スカイツリー （パルシステム東京役職員 7 人も参加）
（2 日目）平和の森公園フィールドアスレチック、「海苔のふるさと館」見学、大森ふるさとの浜辺公園での宝探し、自由観光 （パルシステム東京組合員親子 10 組 24 人・役職員 15 人も参加）
（3 日目）パルブレッド（パルシステムのパン工場）見学（パルシステム東京職員 8 人も参加）

早朝に福島を出発
お昼に浅草へ到着すると 桜も一行を歓迎！
浅草めぐり中に、親子で写真をパシャリ！

スカイツリー展望台から東京を一望！
「また来たい！」との声も。

「アスレチックは
種類がたくさんあって
すごく面白かった！」

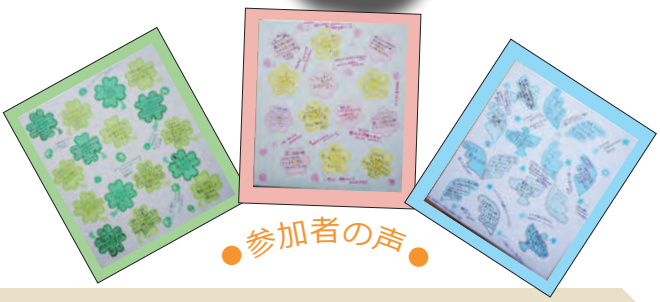
２日目は福島・東京の親子が一緒に遊びました。
「友達がたくさんできたよ！」

公園で、
みんなで宝探し！

「海苔のふるさと館」
では海苔漁師に！

パルブレッド（パン工場）の
本格的な見学に、
大人も子どもも楽しみました。

「焼きたてパン、おいしかった！」



●参加者の声●

●友達がたくさんできたのが嬉しかったです。（子ども）
●パン工場は本格的に見学できて、子どもですが、私も楽しむ事ができました。試食も、自分で注文した事のない物も食べることができて、次回注文するのが楽しみ。子供の意外な好みも新たに発見!!

●全部が楽しい思い出となりましたが、親としてはアスレチックが印象に残っています。原発事故後、外遊びをしていないわけではないのですが、森林等は気になり自然の中での遊びは避けていたので久しぶりに体全体を使って遊べたことを嬉しく思いました。

●観光に、遊びに、社会見学に、ショッピングにと、家族旅行ではなかなかここまでの充実プランはできず大変リフレッシュできました。
●外であんなに走り回って遊べたのは久しぶりで、子供の笑顔で遊んでいる姿が見られて良かったです。

◆ ”忘れない”を基本視点に復興支援活動を引き継き推進します。

署名・意見書／東京都内の避難者への支援活動／他団体との連携

■署名・意見書

パルシステム東京では、意見書の提出や署名活動を通じて、行政に対し、復興に関わる課題の解決を求めています。

○５月 30 日に、東日本大震災の災害公営住宅と復興まちづくりの建設を最優先とすることを求める意見書を内閣総理大臣及び復興庁大臣に提出。また、東京都知事へも同様の主旨で、東京オリンピックの規模縮小を求める意見書を提出。

○東北６県の生協連協同による「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める署名」（※）に協力。11 月 27 日、パルシステム東京委員・役職員より寄せられた 1,130 筆の署名を、宮城生協へ送付。

※当該法律にもとづく支援金支給に関して、最高額の引き上げ、支給対象の拡大・支給要件の緩和、支給の拡充にあたり国の負担額の引き上げ、被災者の総合的な住宅確保のための支援策の検討を、国に対して求める請願署名。全国から 59 万筆以上の署名が寄せられ、２月に国会へ提出。

○ 2015 年３月に、職員を対象に「原発事故被害者の救済を求める全国運動　第二期署名」を実施。４月の組合員署名とあわせ、16,031 筆の署名を、５月 27 日に衆・参両議院議長へ提出しました。

■東京都内の避難者への支援活動

５月 26 日（月）、９月 25 日（木）に、避難者の会「青空会」（新宿区）が開催するサロン活動へ、お茶菓子や会場を提供。

■他団体との連携

これまでの支援活動を通し築かれた他団体とのネットワークを生かし、復興支援活動に取り組んでいます。

４月 25 日～ 28 日	「横山不動尊春大祭」協力支援（東京都生協連コープ災害ボランティアネットワーク）　職員１人を派遣。
５月 ４日 ～ ５日	宮城県東松島市仮設住宅（パル・パラソルカフェを開催地）へのヒアリング訪問、仙石線全通開通の見通しを祝うファイナルイベント「走れ！仙石線」に職員３人が参加
７月 13 日	「むさしのスマイル」企画広域交流会にて避難者の方へこんせんくんグッズを提供（東京都生協連関連）
８月 １日 ～ ４日	「福島こども支援プロジェクト・西多摩の会」への活動資金援助
８月 30 日	東京都・杉並区合同総合防災訓練（東京都生協連関連）
９月 27 日～ 12 月６日	第 14 期コープ災害ボランティア養成講座（東京都生協連コープ災害ボランティアネットワーク）に組合員・役員 22 人が 参加
１月 16 日～ 17 日	日本生活協同組合連合会主催の阪神淡路大震災より 20 年の交流会「2014 年度つながろうＣＯ・ＯＰアクション交流会（神戸市）」に役職員４人を派遣
２月７日	楢葉町社会福祉協議会より要請を受け、会津美里町宮里応急仮設住宅での「ならは雪まつり 2015」への食材支援

◆ 災害時における事業継続と組合員の防災意識を高めます。

防災・減災

■防災の取り組み

○ 全管理職員を対象に「首都直下地震対応図上演習」の実施（管理者 50 名参加）。

○ 2014 年１月 29 日、パルシステム連合会とともに足立区と「災害時における応急物資等の供給及び被災者への支援等に関する協定書」を締結。足立センターを帰宅困難者一時滞在施設とするとともに、非常食、飲料、発電機等を配備。

○ 災害時の情報収集を容易にするために、全事業所に MCA 無線を配備し、無線操作訓練を毎月実施。

○ 災害時に職員の安否確認を迅速に集約するために、「安否確認システム」を導入し、定期的に訓練。

■減災の取り組み

○ 首都直下地震へ対応する減災学習「防災出前学習会」の開催。

・防災担当職員などが講師を務めた防災出前講座・学習会を８回（組合員活動６委員会、本部企画、東京都生協連企画）開催（参加人数 140 名）。

・組合員活動８委員会で防災をテーマに学習会を開催（参加人数 63 名）。

・配送センター３ヶ所で防災をテーマにフェアー、まつり等実施。

「自分と家族を守る防災学習会」

パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書 2014

Pray for Japan

発　　行：生活協同組合パルシステム東京

発 行 日：2015 年 7 月 1 日

発行部数：1,000 部

住　　所：〒169-8526 新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7 F

E - m a i l：palsystem-tokyo@pal.or.jp

印　　刷：スピックバンスター株式会社